

備前市施策評価シート

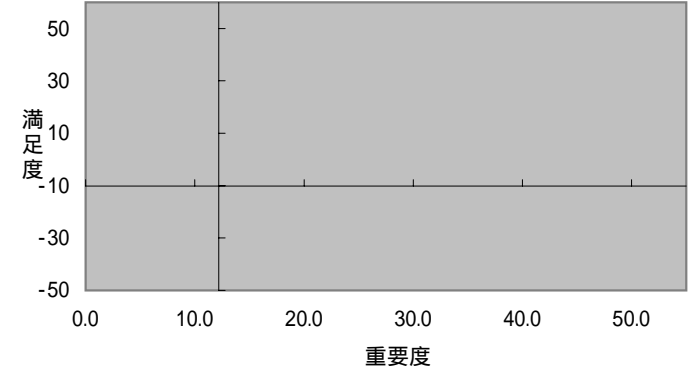
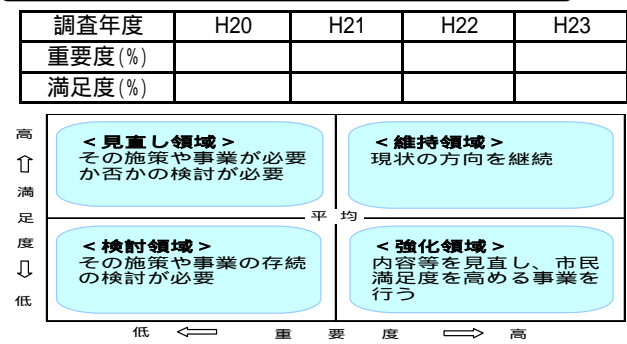
(平成22年度事業)

施策名 (小項目)	図書館・視聴覚ライブラリー	コード	03-02-05	作成者	このシート作成に要した時間	5.0 時間
		役職	図書館長	氏名	宇野信行	
		電話	64-1134			

備前市総合計画の内容から記載する

政策の体系	基本目標(大項目)	地域文化と人が輝くまちづくり
	基本施策(中項目)	生きがいのあるまちづくり
対象と目的 (誰のために、何のために)	市内在住・在勤の市民。(H23年度から、赤穂市民・上郡町民にも図書を出し。) 図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、市民に提供する学習施設として、利用の場を提供する。	
現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	図書館は、本館、日生分館、吉永分館の3館あるが、各館とも閲覧室、書庫が狭いことから、広くて蔵書の充実した図書館が望まれる。また、視聴覚ライブラリーは、高度情報化に対応できる機材・教具の整備が望まれる。	
施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> 図書館の充実 視聴覚ライブラリーの充実 	

市民意識調査による施策の重要度・満足度



調査結果に対するコメント、市民の反応等	市民意識調査で、図書館以外に学習ルームや工作ルームの設置要望及び図書館の充実を望む自由意見があった。
調査対象でない施策は、市民の反応等	

施策成果指標(基本目標・基本施策・施策意図から設定)

施策に対する成果指標名	単位	過年度実績		評価年度	成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明	目標値	
		H20	H21	H22		H23	H28
1人当たりの貸出冊数	目標	冊	3.5	3.5	3.5	H23	3.5
	実績	冊	3.2	3.1	3.1	H28	3.5
	達成率	%	91.4	88.6	88.6	-	-
	ベンチマーク					-	-
視聴覚教材及び機材の貸出団体数	目標	団体	100	100	100	H23	100
	実績	団体	88	72	99	H28	100
	達成率	%	88.0	72.0	99.0	-	-
	ベンチマーク					-	-
市の図書館を月に1回以上利用している市民の割合	目標	%			20.0	H23	20.0
	実績	%			18.6	H28	20.0
	達成率	%			93.0	-	-
	ベンチマーク					-	-
参考指標	目標					H23	
	実績					H28	
	達成率	%				-	-
	ベンチマーク					-	-

施策構成事務事業の評価

施策を構成する事務事業	事務事業評価結果 A~E (高-低)	細事業	事業分類	事業費等(単位:千円,人)										施策への貢献度																
				平成20年度				平成21年度			平成22年度				平成23年度															
				直接事業費	人件費	人工数		直接事業費	人件費	人工数	直接事業費	人件費	人工数		当初予算 (直接事業費)															
1	図書館運営事業	B	図書館運営事業	単市	14,713	10,430	1.41		14,061	10,581	1.37		17,096	11,292	1.40	16,645														
			県図書館協会負担金	単市	12				12	30	0.01		12	94	0.01	12														
2	視聴覚ライブラリー運営事業	C	視聴覚ライブラリー運営事業	単市	107	512	0.09		1,300	441	0.07		10	267	0.03	515														
			県AVL連絡協議会負担金	単市	7				7	58	0.01		7	78	0.01	7														
				この施策に費やした資源(単位:千円,人)				平成20年度				平成21年度			平成22年度		平成23年度													
								14,839				10,942			1,50		15,380		11,110		1,46		17,125		11,731		1,45		17,179	

以外で、目標達成に必要な新規事業及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果
生涯学習課	びぜん子ども読書ネットワーク事業	読書ボランティア関係者に研修会や交流会等の機会を設け、実践力向上とネットワーク構築を図り、子ども読書活動を推進する。
教育総務課	学校図書館業務システム導入事業	公共図書館と同じ図書利用カードの利用により、公共図書館利用者の増を図る。

施策の評価

項目	評価	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い	
		判断理由(なぜ、そのランクと評価したのか)	
<成果指標の妥当性> 1 施策の目的・成果を表現しているか?	4	図書館については、市民1人あたりの年間貸出し冊数を成果指標とし、図書館の利用促進を図っており妥当な指標である。視聴覚ライブラリーについては、機材・教材の貸出団体(延)数を指標とし、ライブラリーの充実を目指しており妥当な指標である。	
<事業構成の妥当性> 2 手段は最適か?	3	図書館運営事業は、市立図書館、県立図書館等の資料活用により、図書館の利用促進が図られることから、事業構成は妥当である。視聴覚ライブラリー事業は、機材の利用を図ることから、事業構成は妥当である。	
<施策の有効性> 3 指標分析、評価年度・中長期の達成見込みは?	3	図書の貸出冊数はほぼ横ばい状況。子ども読書活動の推進、横断検索システム、移動図書館車のPRにより利用者増を図り、目標達成を目指す予定。視聴覚機材の貸出についてはほぼ目標達成できた。今後も教材等の更新により利用者増を目指す予定。	
進行年度(H23年度)の取組内容(課題解決状況)		移動図書館車の巡回場所の見直しを実施予定。また、びぜん子ども読書のネットワーク事業と連携し読書活動の推進を目指す予定。視聴覚機材としてプロジェクター1台、教材としてDVDソフト3本(人権啓発・交通安全・虐待防止)を購入する予定。	
翌年度(H24年度)の取組目標		移動図書館車の巡回場所について随時見直しを行う。子ども読書のネットワーク事業との連携強化を図り読書活動を推進する。視聴覚教材については、高度情報化に対応できるものに随時更新する。	
二次評価者コメント		図書の貸出し冊数はほぼ横ばい状況である。岡山県横断検索システムの共同利用等の促進により、ソフトウェアは充実しつつある。東備西播定住自立圏構想により、赤穂市・上郡町等との相互利用ができるようになってきている。また、平成22年度から子ども読書ネットワーク事業を行い、ボランティア関係者との連携も図られつつある。図書購入費も増額となっており、冊数の充実も図られている。現在図書館の閲覧室等が狭いことから、蔵書の充実した広い図書館の建設が望まれる。	
役職	教育次長		
氏名	竹中 史朗		

基本施策への貢献度	3 中立
-----------	------